

通信

NPO法人民謡民舞公演実行委員会

第 3 号

発行NPO法人民謡
民舞公演実行委員会
発行人編集人

三宅良二

〒267-0053
千葉市緑区高津戸町
309-44-305
☎043-310-6175

NPO法人
民謡民舞公演実行委員会
副理事長 金子竹千

昭和十八年秋田県湯沢市中ノ台生れの金子竹千と申します。平素は当会の運営・事業にご支援ご協力を賜り誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。ご挨拶も兼ね自己紹介させて頂きます。地元秋田県の高校に入学して高校生活を送っていました。が、卒業を前にして一念発起し上京、縫製会社就職し、服飾デザイナーの専門学校、文化服装学院の夜学に入学して、好きな服飾について勉強しました。

昭和五十年、三十二歳の時に、会社を設立し、千葉県習志野市谷津に七十坪程

するとここになりました。まだまだ元気で、何かやりたいなと思つた時、以前からの好きだった「カラオケ」と元々付き合ひのあった、秋田県の佐々木常雄さんから紹介で、佐々木實先生に、秋田民謡を本格的に教わることにしました。佐々木實先生には毎月上京頂き、指導頂いております。元の縫製工場も今は改造して力オケ設備や音響設備を揃え、稽古場やちょっとした宴会場になっています。

今年は、体調を崩し、ご心配をお掛けしておりますが、少しずつ回復しており、また唄ったり、踊ったりしたいと思っております。

三宅良二さんとは、たまたま一緒に増田龍鳳先生に踊を教わっている縁で、昨年発足されたNPO法人民謡民舞公演実行委員会の副理事長を、お引き受けしました。設立のお話を伺った時には、数年前に踊の關係で同じNPO法人を作られた方がおられ、三年持たずに解散されたことがあり、継続運営することが、難しいものとの認識がありましたので、三宅さんには「三年は頑張りなさいよ」と申し上げました。が、この調子ですと、ながら協力させて頂く所存です。微力ですが、よろしくお願いいたします。

秋の華まつり二〇二二より



藤田周次郎



昭和三十四年三月三十日、民謡を志し故郷秋田県比内町を離れて上京し、早や六十三年の歳月が過ぎ、その間、数多くの方々との出会いがありました。最初は民謡の大家、日景寛悦先生にお世話になりました。先生が務めておられた浅草吉原の民謡酒場にお世話になり、そこで師匠である初代藤田周次郎師と奥様に、出会いました。この出会いが無ければ今日の私は無かったと思います。全くの他人が、今は藤田家の息子として、その上、二代目を襲名させて頂き、好きな民謡を生業として、天職と思ひ、その道を歩ませて頂いております。思えば長い年月の中で師匠から厳しい指導と、時には優しく諭すように人間の機微、感謝の心を教えて頂きました。こうした色々な貴重な出会いのみ重ねがあり、芸能界で大勢の先生方ともお

付き合ひさせて頂いております。その他各放送関係の方々、レコード界の先生方にも可愛がって頂き、テレビにラジオにレコーディングにと使つて頂いております。

話が戻りますが、昭和三十五年の五月、千駄ヶ谷の東京体育館での日本民謡協会の大会に民謡出場「こけし」の代表として推薦され、大舞台、足が地に付かない感じ。初めてこの私の様子をみていた師匠の奥様が、「霧が晴れたように心強く感じたことを覚えていました。」と語り、握って唄った時、それは唄い終わって活躍する方も何人かおられる。そして結果発表の時が来て、師匠から「光夫君三位だよ！」と言われた時、一瞬信じられない思いでした。

大会の審査員の先生方から「貴方は何才ですか」と聞かれ「十七歳です」と答えたと、「えーっ」とびっくりされてしまった。

私は年が若いので、もしかしたら失格かと思いましたが、ビクタ―で活躍された佐藤寿昭さん、準優勝が青森在住の藤田光夫さんとお二人とも当時すでにプロとして活動されていました。「第三位武田光夫さん」と自分の名前を呼ばれた時の感動は今でも忘れられませんが、その後、日本民謡協会から分離して日本郷土民謡協会が誕生しました。

昭和三十六年十一月十二日、郷民の第一回全国大会が両国日大講堂にて開催されました。師匠のご指導のお陰でその

大会で優勝することが出来ました。夢のようない出来事でした。

日本郷土民謡協会の大会は今年で六十一年になります。第一回優勝入賞者記録の一回に、武田光夫と記されています。これを機に師匠のお力添えで、今は亡きキングレコードの名ディレクター掛川尚雄先生のもとで優勝曲「酒屋唄」で初レコーディング。自分の唄を聴いて嬉し涙を流しました。

その日から「芸の道は厳しいよ」と云われ、勉強だから初心を忘れるなよ」と諭され、今でもその言葉を忘れず、一歩一歩焦らず自分なりに努力しています。

昭和、平成、令和と変わり、見るもの聴くものの映画からテレビ・インターネット、音も良くなり美しい音、綺麗なCDに、音も良くなり美しい音、綺麗な音が聴けるような時代になりました。

音楽が素晴らしい音が流れ、携帯電話で聞いた素朴な唄を後世のために残しておくことも、外国洋楽器とアレンジして面白く踊り等も色々と手を加えて、これも又現代風ではないのです。

私は、民謡はもちろん童謡・子守歌・浪曲・花街の唄等々、遠い祖先・先人の先生達の作り上げた、厳しい稽古・修行の中からの生まれ育てられてきた日本の唄や、素晴らしいと思います。歌詞の内容はや、故郷の風景や情景、冬の厳しい野や山や平野の吹き捲る風の音、春の花が一斉に咲く頃、師匠の故郷津軽の情景を思い浮かべながら荒々しい波が岩に尺八でも同じように吹き下ろす風の音、それらを想いながらいきいい音色、いい曲

「歌手に成るつもりが
司会者に」

昭和四十二年故郷秋田から歌手を
夢見て上京。栄養短大に通学しながら
作曲家の市川昭介歌謡教室に通いま
した。しかし、秋田なまりが出て
パットせず、それでも半年間程いま
した。その後作曲家、長津義司先生の
歌謡教室で三波春夫さんの曲ばかり歌
いました。さすがに歌謡曲は無理と
悟り、四十三年に武蔵小山に有る民謡



「酒場」は、佐々木弘樹・晴子夫妻の民謡教室に通い、まじった。そこで覚えた唄が「酒屋仕込み唄」。四十五年に東芝レコード星野白謡民謡教室に移り、郷民の全国大会で「酒屋仕込み唄」を唄い準優勝しました。た。勤務して、短大を卒業して順天堂病院に勤務して、夜は「浅草追分」で唄と司会者の修行。それがきっかけで郷民の司会者になりました。当時、郷民の司会者もベテランが多く、弱冠二十二歳の私は新米でいつもハラハラドキドキでした。徐々に司会者として名が売れ、発表会や結婚式の司会を頼まれた。とが多くなりました。勤めていた病院は土曜・日曜日の休みが取れず、苦勞をしました。そこで病院から銀行へと勤め先を替え、月曜日から金曜日まで銀行、土曜・日曜日は民謡の舞台へと変わっていきましました。そんな中、郷民の歌舞伎座公演があり、これを機に、名前を佐藤芳蔵から、佐藤の佐を取り、「藤」に、芳蔵を「四四三」に替え、「藤四四三」となりました。

はあれから、もう五十年過ぎました。今はコ口ナで舞台も少なく充電期間が続



佐々木鶴藤



い、て、い、ま、す。
 声、を、出、し、て、い、ま、す。
 も、鍛、え、つ、つ、と、い、ま、す。
 ま、で、も、若、い、と、い、ま、す。
 も、り、で、舞、台、を、つ、つ、と、い、ま、す。
 と、盛、り、上、げ、い、た、い、ま、す。
 と、思、っ、て、い、ま、す。

この度、紙面をお借りして、かつて活躍されました、民謡界の超一流の先生方のお名前を書き残してこうと思ひ立ち、とても、光栄な機会を頂戴し、身の引き締まる思いで筆を執っています。

これは、私が津軽民謡を始めた頃の恩師、佐々木鶴声先生から聞いた話です。それは、今では知る人ぞ知る、江差追分の元祖名人「三浦為七郎先生（三橋美智也さんの叔父）」の所に、偶然、同じ時期に初代浜田喜一先生と佐々木鶴声先生のお二人が内弟子に入った時の話です。

佐々木鶴声先生は、初代長谷川栄八郎先生から、「江差追分の勉強をしてくるように」と修行に送り出されました。

数か月か経ったある日のこと、初代浜田喜一先生と佐々木鶴声先生は、三浦為七郎先生の厳しい修行に耐え切れず、二人で稽古場から抜け出し、幾日か北海道を彷徨ったとのことでした。

今、私の民謡人生は半世紀、五十年を過ぎようとしています。一民謡とい

う文化伝統芸能を後進に継承していくべき者の一人として、津軽の民謡や津軽三味線の継承者の育成に力を注いでいるのですが、昨今、津軽三味線に比べ、民謡の後継者が少ない状況が続いています。

昭和から平成・令和に入り、特に若い後継者たちの民謡離れが進むにつれ、民謡界が危機的状況になってくるのを目の当たりにしています。コロナ禍が約三年続き、第八波が迫り来る中、さらなる危機感を感じざるを得ません。

さて、十一月十二日、浅草ビューホテルで「三橋美智也師を偲ぶ二十七回忌」が行われました。弘前市に住む「三橋美智也（みちや会）」の工藤隆会長からお声掛けいただき、長谷川栄人さんとお声掛けいただき、した。三橋美智也さんとは直接お会いしたことはありませんでしたが、昔話を思い出し、今、語らなければ忘れられてしまう話を、ここに書き留めさせていただきます。

正午から開始された「偲ぶ会」には三橋さんを懐かしむ関係者ら約百五十名が参席しました。実弟の金谷博治・郷土民謡名誉会長を始め、原田直之さん、大塚文雄さん、キングレコードの元プロデューサー、満留紀弘さんなど、故人と関係の深かった方々を囲み、名司会の藤四三さんが、懐かしいヒット曲の紹介を織り交ぜながら、会の進行役を務めまておられました。

私のテーブルには、九重ゆみ子さんのお姉様、少し離れた所に三橋美智也さんの愛弟子で歌手の島三喜夫さんがいらっしやいました。

会の進行の中で「三橋美智也さんの舞台衣装の着物を津軽民謡の山本謙司さんが頂いた際、愛弟子の島さんが目



を光らせてましたよ」と藤四四三さんが面白くおかしく語られていました。八郎先生は私も、以前、三代目長谷川栄お宝「フランスのデュポン製のリライター」を頂戴し、長く愛用してました。そこで、今、改めて「このライターを三橋美智也さんが愛用されていたという証を頂ければ」と思い、懐に忍ばせて会に参加したのです。先程、藤四四三さんから島さんとの面白い話を聞いたあと、「今がチャンス」と思い、ライターを島さんにお見せしたところ、ライターの写真は何枚か撮って懐かしんでおられま



した。金谷さんにもお見せしたところ
「確か、昔、三代目長谷川栄八郎さ
んが、函館の料理屋で蟹料理をご馳走
になりながら、栄八郎先生にプレゼン
トされた」ということが判明したので
した。周囲の皆様からは「テレビの『
お宝鑑定団』ものの珍しいものではな
いか」と大盛り上がりでした。



は、綺麗どころを連れた旦那衆が目立つ
て、施河の輪船の川蒸気船の通参
道には三軒の旅館があり、客手に
で、旅人達も出入りして、天酒盛
です。わかれていたのが「布施天
一唄の背景」

三十二の唄は小生が昭和五十年
資料の二年から採譜したもので、
に、唄で、この地と、船頭が、
騒ぎの唄、思われ、船頭が、
きたのも、は、我が家で庭師を頼
き、たのは、我が家で庭師を頼



親睦と民謡の故郷を訪ねる旅、一回目と
なる。今、九月十二日から二泊三日、山
形旅行に行きました。天気にも恵まれ、
お世話になり、民謡と楽しい旅行になり
ました。光、山寺、最上川舟下り、湯殿山、
出羽三山神社へ。歩いて、お疲れ様でし
く、筋肉痛になった方も。お疲れ様でし

「秋の山形旅行」より

を、に、早、お、ね、と、口、さん、鼻、歌、ま、じ
り、に、早、お、ね、と、口、さん、鼻、歌、ま、じ
す、に、早、お、ね、と、口、さん、鼻、歌、ま、じ
地、に、早、お、ね、と、口、さん、鼻、歌、ま、じ
で、に、早、お、ね、と、口、さん、鼻、歌、ま、じ
し、に、早、お、ね、と、口、さん、鼻、歌、ま、じ
布、に、早、お、ね、と、口、さん、鼻、歌、ま、じ
褒、に、早、お、ね、と、口、さん、鼻、歌、ま、じ
後、に、早、お、ね、と、口、さん、鼻、歌、ま、じ
（、に、早、お、ね、と、口、さん、鼻、歌、ま、じ
朝、に、早、お、ね、と、口、さん、鼻、歌、ま、じ
江、に、早、お、ね、と、口、さん、鼻、歌、ま、じ
ち、に、早、お、ね、と、口、さん、鼻、歌、ま、じ
ち、に、早、お、ね、と、口、さん、鼻、歌、ま、じ



七月三十一日十二時半より浅草木馬亭にて、民謡民舞「夏の華まつり」が開催されました。暑い中にもかかわらず、会場も満員、楽屋も満員？でした。ご協力有難うございました。プログラムの出来もダンダン良くなってきたとの評価も。お疲れ様でした。

「夏の華まつり」開催されました





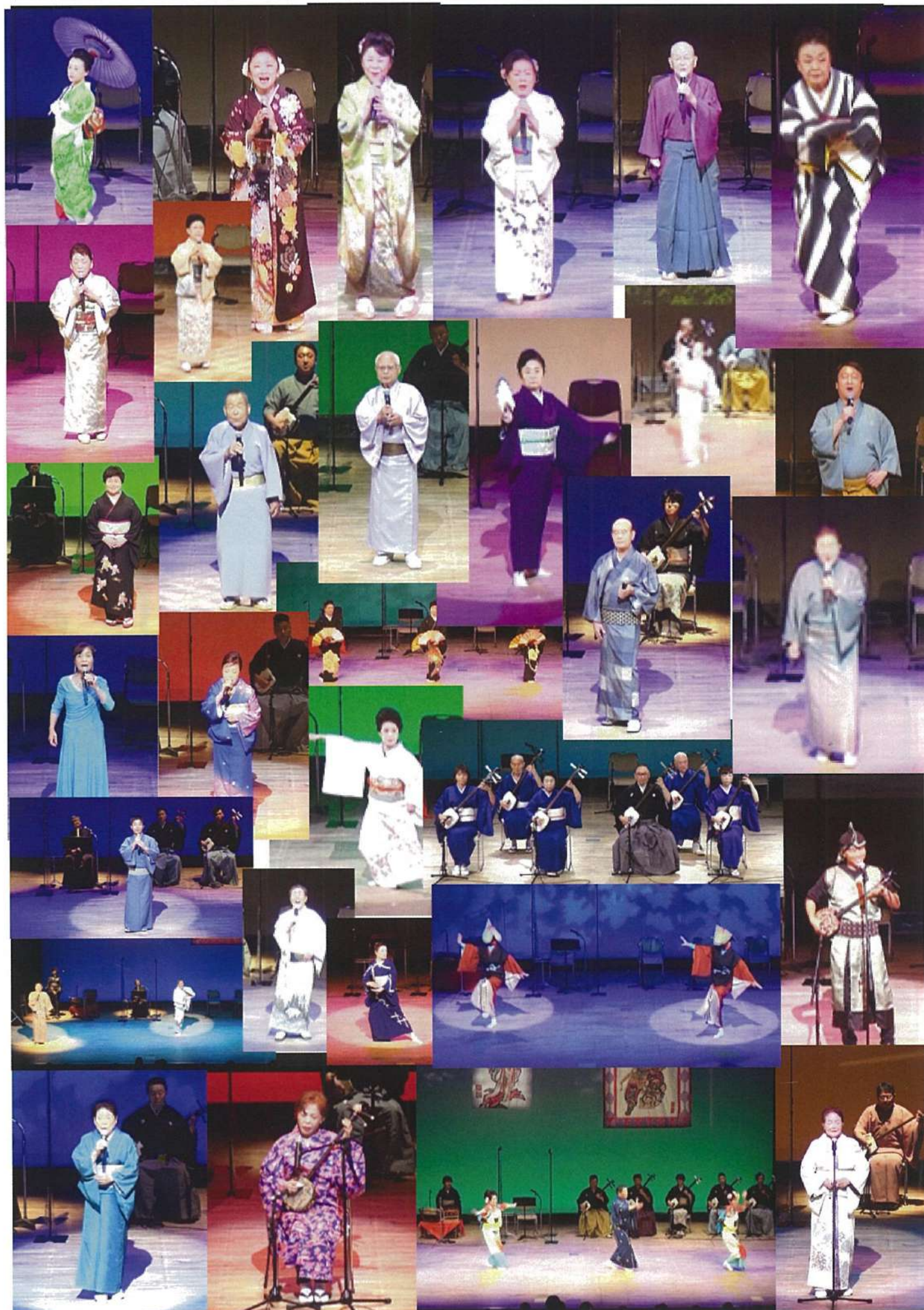


「一周年記念公演
「秋の華まつり二〇二二」
が開催されました。」

十月十日、江東区亀戸文化センターホールにて、昨年発足しました当会の一周年記念公演として、民謡民舞「秋の華まつり二〇二二」が開催されました。大勢の方にご出演頂き、満員のお客様で盛況に開催することが出来ました。有難うございました。

背景に映像を取り入れる等、華やかな舞台になるよう心掛けました。フィナーレの秩父音頭の踊には、大勢の方に参加頂きました。







◆会員の皆様のイベント予定

「山根会十周年記念民謡まつり」
十二月十一日(日)九時半開演
川崎市幸文化センター大ホール
山根善童先生が十周年記念の民謡まつりを開催されます。「入場無料」

◆当会のイベント予定

本年度の総会・懇親会は残念ながら中止となりましたが、総会は書面決議にて正会員の皆様から返信頂き、令和三年度の事業・収支報告、令和四年度の事業・予算等承認されました。当法人の決算月は七月一日から翌年六月末日となっております。が公演会場の多くが一年前の申し込みであることと、NPO法人の設立認証申請時には二期分の事業計画書を提出したといこともあり、令和五年度の事業計画(案)も承認頂きました。

◆「津軽民謡新春公演二〇二三」
令和五年一月二日三日四日
浅草木馬亭 午後五時開演

◆民謡民舞「春の華まつり」
令和五年四月二十二日(土)
江戸川区船堀タワ―ホール大ホール

出演申込書を同封させて頂き、大勢の方にご出演下さいますようお願い致します。船堀タワ―ホールは都営新宿線船堀駅徒歩一分です。

◆千葉の民謡を唄おう
「民謡日本一選手権」
会場・日時未定
(令和五年六月か七月予定)

◆令和五年度総会・懇親会
八月後半の(土)または(日)を予定。
会場未定。

◆仮称「秋の華まつり二〇二三」
令和五年十月二十三日(月)
すみだトリフォニーホール小ホール
*十月、十一月と来秋の会場の抽選に
会員の方にも協力頂き参加しました
が、残念ながら土日の会場確保が出来
ませんでした。詳細は今後打合せ
の上ご案内させて頂きます。

◆第二回親睦旅行
令和五年十一月予定
*観光を兼ねて奉納芸能を行う予定で
す。日程等詳細が決まりましたら改
めてご案内させて頂きます。多くの
ご参加をお待ちしています。

理事長 三宅良一

五十三歳の時に三十一歳務めた会社を辞め、長年取り組んでいます。民謡中心の生活になって五年目に、昨年設立しました。「特定非営利活動法人 民謡民舞公演実行委員会」、皆様のご支援とご協力の陰で二年目の事業も、コロナ禍のため中止した事業もありますが、概ね順調に進んでおります。心より御礼申し上げます。

中学生の頃より、民謡を聴き始め、「民謡オタク」と自認しています。高校の時には実家の百姓を手伝うため「帰宅部」でしたので、一度は体育会の格闘技系のクラブ活動がしたいと思い、「柔道部」に入部しました。

当時NHKFMの「日本の民謡」を欠かさず録音するのが習慣でした。土曜日の午後二時。ちょうど柔道の稽古と時間が重なり何度か休んだところ。なんで稽古にこんなか（休んだところ）なんですか。九州弁でした。「北九州市の学校でしたので九州弁でした」。「日本の民謡をエアーチェック（録音）するので」と正直に言ったところ、「そんならタイマーばい。買えばよか」と言われ少ない小遣いの中で購入したことを思い出しました。（中絶）卒業してから柔道はすることはないと思っっていました。二人の息子が小学生の時、立川柔道界会に通い、昇段試験を受けて二段を頂きました。

十二月四日には、初めてふるさとの島根県。益田市でのラジオ公開録音「民謡をたずねて」に出演させて頂きます。四十年前、田舎にいた子供の頃には、ラジオを聞いて、「いつか一度出てみたい」と思っていたものです。

夢が叶いました。両親が元氣な時なら、な、お良かったのですが、空から見守られてくれていると思います。

同級生が、母校の校長先生になるような、一般の社会では、もうすぐ定年を迎えサラリーマン人生の総仕上げをする年齢ですが、民謡の世界では、私はまだ若手（笑）です。

かつて民謡ブームと言われる時代がありました。それを支えてこられた年代の方が、そのまま今も支えているのが、民謡の世界です。民謡の世界だけでなく、日本全体も八十歳代、七十歳代が中心です。人生百年時代、今の八十歳代、七十歳代は元氣な方が多いです。私の目標です。

株のことは詳しくありませんが、株の世界の格言に「もうはまだまだなり。まだはもうなり」というのがあります。二〇二〇年大相撲一場所です。まさかの優勝をした徳勝龍関が、優勝インタビューの中で、「私なんか優勝していいでしょう。か。もう三十四歳じゃなく、まだ三十四歳という気持ちで頑張ります」と。奈良県、関西出身ということとで回りを笑わせる内容で印象に残っています。

私も、もう五十七歳（もう少しで五十八歳になります）ではなく、まだ五十七歳という気持ちで頑張っています。

最近、「断捨離」や「終活」という言葉をよく聞きます。どうせ、もしものことが起こったら、その子供たちや誰かが、ろくに中身も見ずに捨てることになるの。に。一つ一つに思いや思い出があり、なかなか捨てられないものです。

母親が存命の時に、片付けようとの思いから、勝手に捨て、ゴミ捨て場に持っていく。行ったものを、また母親が持って帰る。というようなことがありました。母亡き今ならどんな片付けられるのに。

「終活」出生率の低下が問題になっても

編集後記

死亡率が問題になることはありません。でも周りと繋がりをもちて生活して頂きたいと思います。同郷の方々の「ふるさと会」の事務局を縁あって十数年して、連絡があり、残った家族が困らないように整理するのは必要だと思います。どうせ、希望しなくても、だんだんと付き合いが減り、会うことも出来なくなる時が来るのに。会うことも出来なくなるまともな無い内容になりました。いつかあるか判りません。ご縁を大切にしたい。残したいことを、出来る時にやって、やり残したことを、人生にと、願っています。今年も残すところ一か月です。どうぞご自愛ください。

編集後記

不定期で年に二回程度発行予定の会報、今号3号にも寄稿下さいまして有難うございました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。ワードとエクセルと糊とハサミと印刷はコピーで作成しておりますが、今号は初めて印刷にしました。プログラムを何度か作成しましたので、少しパソコンの操作を覚えましたが、誤字脱字等がありましたらお許し下さい。次号は来春頃を予定しております。民謡テーマは何でも結構です。民謡以外の事でも大歓迎です。我が人生、昔話、将来の夢等々寄稿下さいます。お願いいたします。お待ちしております。早いもので師走。残業が悪となつて、明日で帰りのなら明日やることにして、定時に帰ろう。という時代ですが、やり残したくないよう、お過ごし下さい。